

期中の評価個表

事業名	民有林直轄治山事業	事業計画期間	昭和47年度～平成16年度
事業実施地区名 (都道府県名)	尻別川地区(しりべつかわ) (北海道)	事業実施主体	北海道森林管理局函館分局 後志森林管理署
事業の概要・目的	<p>羊蹄山は、火山性荒廃地で脆弱な地質と急峻な地形のため、斜面には多数の大規模な侵食谷と下方には土石が厚く堆積する扇状地が広がっている。降雨時には土石流が発生し直下の農耕地・人家・道路等に甚大な被害を与えており、北海道により治山事業が実施されてきた。</p> <p>山頂部から山麓まで続く長大な崩壊地の復旧と渓流に大量に堆積した不安定な土砂の固定、流出防止を図るには、大規模で継続的な治山対策が必要ことから、道及び地元の強い要請も踏まえ、昭和47年から民有林直轄治山事業として本事業に着手した。その後、大規模な豪雨災害の発生に応じ、事業内容を見直しつつ、現在に至っている。</p> <p>主な事業内容：溪間工 640基 山腹工 63.68ha 資材運搬路 22,101m</p>		
費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化	<p>本事業の採択当時においては事業評価制度が導入されておらず費用対効果分析を行っていないが、現時点における費用対効果分析結果は以下のとおりである。</p> <p>総費用(C) 14,473,108千円 総便益(B) 44,861,026千円 分析結果(B/C) 3.10</p>		
森林・林業情勢、農山漁村の状況その他の社会経済情勢の変化	<p>羊蹄山は、山頂から放射状にガリーが発達して侵食が激しくV字谷を形成し、上・中流部に大量の不安定土砂が堆積しており、集中豪雨時の土石流等により下流域に多大な被害が発生。</p> <p>保全対象：人家347戸 公共施設17 公道76km 田畑1,654ha</p>		
事業の進捗状況	<p>谷止工、床固工、低ダム群による拡散工法等により水源地の沢、北こぶ山の沢等は、ほぼ復旧されているが、滝の沢、青木の沢等では上流部の大崩壊地で拡大侵食が著しく、大量の土砂が生産・流下している。不安定土砂の流出を抑制するとともに渓岸侵食の抑制を図るため、溪間工の整備を進め、崩壊地については、拡大を抑制するため、土留工の施工、草・木本類による緑化工を実施している。</p>		
関連事業の整備状況	該当なし		
地元(受益者、地方公共団体等)の意向	<p>上流部に不安定土砂が堆積しており、豪雨等により下流農地に土石流の流出・浸水が予測されますので、引き続き民有林直轄治山事業の施工を要望します。 (倶知安・京極・喜茂別町)</p> <p>民有林直轄治山事業の継続実施により、近年では、大雨による土石流災害の発生が見られず、同事業が多大な成果を上げているところ。今後とも、地元町の要望を踏まえ、住民の生命財産を守り、土石流などの災害への不安解消を図るため、現在の荒廃状況に対応し、継続して事業実施されるよう要望。(北海道)</p>		
事業コスト縮減等の可能性	<p>間伐材及び現地発生材を利用した工法等を採用し、コスト縮減を図っており、今後もより一層のコスト縮減に努めることとしている。</p>		
代替案の実現可能性	該当なし		
第三者委員会の意見	<p>今後も周辺環境に配慮しつつ、事業を継続実施することが望ましい。</p> <p>当事業の進捗により、被害が減少するなど、事業の効果が認められるが、未だ荒廃が進んでいる流域があることから、それらの荒廃状況を踏まえた整備計画を検討すべき。</p> <p>事業効果のピーアールや民有林施策との連携に一層の努力を期待する。</p>		
評価結果及び実施方針	<ul style="list-style-type: none"> ・必要性：現在の荒廃状況から、放置すれば山腹・渓流荒廃地の拡大と土砂流出等が懸念されること、地元からも土石流の流出、浸水防止のため継続実施の要望があることから、これに対応した事業の実施が必要。 ・有効性：崩壊地の復旧及び低ダム群工法により、土石流等の拡散堆積などの施工効果が認められる。 ・効率性：対策工の計画に当たっては現地に応じた効率・効果的な工種・工法で検討されており、事業実施に当たってもコスト縮減に努めていることから効率性が認められる。 <p>上記からの各項目及び各観点からの評価、並びに第三者委員会の意見を踏まえて総合的かつ客観的に検討したところ、事業の継続実施が妥当と判断される。また、荒廃現況を精査の上、関係機関と調整しつつ、今後整備内容を検討する。</p> <p>・実施方針：継続</p>		